

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年4月14日

【四半期会計期間】 第44期第2四半期(自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)

【会社名】 株式会社プラップジャパン

【英訳名】 PRAP Japan, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 杉田 敏

【本店の所在の場所】 東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル

【電話番号】 03(4580)9111

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 泉 隆

【最寄りの連絡場所】 東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル

【電話番号】 03(4580)9111

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 泉 隆

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第43期 第2四半期 連結累計期間	第44期 第2四半期 連結累計期間	第43期
会計期間	自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日	自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日	自 平成24年9月1日 至 平成25年8月31日
売上高 (百万円)	2,275	2,645	4,810
経常利益 (百万円)	259	254	591
四半期(当期)純利益 (百万円)	145	87	313
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	209	152	430
純資産額 (百万円)	2,454	2,674	2,636
総資産額 (百万円)	3,843	3,894	4,194
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	36.30	21.77	78.50
潜在株式調整後 1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	62.0	65.7	61.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	172	31	405
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7	22	108
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	134	143	239
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	1,727	1,870	1,986

回次	第43期 第2四半期 連結会計期間	第44期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年12月1日 至 平成25年2月28日	自 平成25年12月1日 至 平成26年2月28日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	24.27	19.07

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 3. 潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたP R事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

また、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間の日本経済は、政府や日銀による円安・株価の上昇など、景況感は緩やかな回復基調で推移していましたが、2014年に入り、米国の金融緩和縮小の影響や新興国市場の先行き不安の影響から、株式市場が低迷を受け、国内経済見通しにおいても不透明感が高まっています。また、消費税引き上げに伴う消費減退への懸念などもあり先行き不透明感は依然続いているものと考えます。

そうしたなか、国内PR市場は、企業の堅調なマーケティング需要に伴い、安定的かつ緩やかな回復傾向が続いており、当社におきましては、新規問い合わせは増加傾向にあります。なかでも、ヘルスケア、IT分野の引き合いが数多くみられ、当社グループ内で情報交換を行い、連携して横断チームを組むなど、専門知識をもった人的リソースの効率的な活用に努めています。

当社単体では、前年、獲得した大型のプロジェクト案件の減少や受注単価の減額はあるものの、長期的なパートナーシップをもとにしたリテナー契約の案件が前年よりも増加しました。また、多数の既存顧客におきましても、年間での契約更新を進め、売上に寄与しています。さらに、国内連結子会社は、海外企業や組織だけでなく、国内企業との取引においても安定的に業務を受注し、堅調に推移しています。

海外連結子会社におきましては、自動車関連のプレスイベントや精密機器メーカーのプロジェクト業務を複数受注するなど、好調に推移いたしました。そのほか、中国企業が主催するイベントのプレス誘致や現場対応を行うなど、日系企業だけでなく中国企業からの広報活動の引き合いも増えています。

なお、当社の創業者で元代表取締役会長の故矢島尚の在任中の労に報いるため、役員退職慰労金の功績加算分35百万円などを第1四半期連結会計期間に特別損失として計上しています。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,645百万円（前年同四半期比16.3%増）、営業利益は252百万円（前年同四半期比1.4%増）、経常利益は254百万円（前年同四半期比1.8%減）、四半期純利益は87百万円（前年同四半期比40.0%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間の主なクライアントとして、新規リテナークライアントは、教育関連、航空会社、飲料、自動車、アパレル、化学メーカー、インターネットサービス、電気通信産業、オンラインゲームなどの企業を多数獲得しています。また、新規および既存顧客のプロジェクト業務としては、ヘルスケア、総合商社、消費財メーカー、化粧品、電機メーカー、食品、自動車などの企業を多数獲得

しています。イベント制作関連では、外食産業の新製品発表会やCM発表会、IT企業におけるクリエイティブワーク、百貨店、タイヤメーカーの社内報制作などを受注しました。

(注) 前期に区分掲載していた「部門別概況」ですが、クリエイティブサービス部門の会社全体に対する実績が減少し重要性がなくなったため、当期より部門別概況の説明は省略しております。

当第2四半期連結累計期間における主な勘定科目等の増減の状況は次のとおりです。

(売上高)

当第2四半期連結累計期間において売上高は2,645百万円と前年同四半期連結累計期間に比べ370百万円(16.3%)の増収となりました。

これは、当社単体の売上高は109百万円(-7.1%)の減収となったことに加え、既存の連結子会社2社についても減収となりました。しかしながら、残りの中国子会社2社において大型イベントを受注し業績が好調だったことにより増収となったことに加え、前第2四半期連結会計期間より連結子会社化されたウィタンアソシエイツ株式会社の売上高が貢献したことによるものです。

(営業利益)

営業利益は、252百万円と前年同四半期連結累計期間に比べ3百万円(1.4%)の増益となりました。これは、外注費及び媒体費等の売上原価が前年同四半期連結累計期間に比べ331百万円(20.2%)増加したことや、販売費及び一般管理費が前年同四半期連結累計期間に比べ34百万円(9.0%)増加したものの、売上高が前年同四半期連結累計期間より370百万円(16.3%)の増収となったことによるものです。

(経常利益)

経常利益は、営業利益が3百万円(1.4%)の増益となったものの、為替差益が7百万円減少したことにより、254百万円と前年同四半期連結累計期間に比べ4百万円(-1.8%)の減益となりました。

(四半期純利益)

四半期純利益は、87百万円と前年同四半期連結累計期間に比べ58百万円(-40.0%)の減益となりました。これは、経常利益が4百万円(-1.8%)の減益となったことに加え、前年同四半期連結累計期間に計上されなかった特別損失の役員退職慰労金35百万円などが当第2四半期連結累計期間では計上されたことによるものです。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、3,159百万円と前連結会計年度末に比べ299百万円の減少となりました。これは、たな卸資産41百万円が増加したものの、現金預金が128百万円減少したことや、受取手形及び売掛金が220百万円減少したことが主な要因であります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、735百万円と前連結会計年度末に比べ1百万円の減少となりました。これは、長期性預金が20百万円増加したものの、差入保証金が6百万円減少したことや、のれんが7百万円減少したことが主な要因であります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、917百万円と前連結会計年度末に比べ167百万円の減少となりました。これは、未払金86百万円、未成業務受入金41百万円が増加したものの、支払手形及び買掛金98百万円、未払法人税等53百万円、未払費用58百万円が減少したことが主な要因であります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、302百万円と前連結会計年度末に比べ170百万円の減少となりました。これは、主に役員退職慰労引当金169百万円が減少したことが主な要因であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、2,674百万円と前連結会計年度末に比べ38百万円の増加となりました。これは、配当金107百万円の剰余金処分により、利益剰余金が20百万円減少したものの、少数株主持分が40百万円増加したことが主な要因であります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、法人税等の支払額139百万円、役員退職慰労引当金の減少額169百万円、配当金の支払額108百万円等の要因により減少したものの、税金等調整前四半期純利益209百万円、売上債権の減少額220百万円等の要因により、前第2四半期連結会計期間末に比べ143百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末は1,870百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、31百万円(前年同四半期は得られた資金172百万円)となりました。これは、主に法人税等の支払額139百万円、仕入債務の減少額98百万円、役員退職慰労引当金の減少額169百万円が生じたものの、税金等調整前四半期純利益209百万円、売上債権の減少額220百万円が生じたことなどによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、主に差入保証金の回収による収入6百万円が生じたものの、定期預金の預入による支出7百万円や有形固定資産の取得による支出18百万円が生じたことにより、22百万円(前年同四半期は得られた資金7百万円)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動に使用した資金は、主に配当金の支払額108百万円、少数株主に対する配当金の支払額34百万円により、143百万円(前年同四半期は使用した資金134百万円)となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,716,000
計	18,716,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年4月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,679,010	4,679,010	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	4,679,010	4,679,010		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減額 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年12月1日～ 平成26年2月28日		4,679,010		470		374

(6) 【大株主の状況】

平成26年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
キャベンディッシュ・スクエア・ホールディングス・ビーヴィー (常任代理人 オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン合同会社)	オランダ王国ロッテルダム、ディーイー3072、ウィルヘルミナブレイン10 (東京都渋谷区恵比寿4-20-3)	935	20.00
矢島 婦美子	川崎市麻生区	885	18.92
野村 しのぶ	東京都渋谷区	394	8.42
矢島 さやか	川崎市麻生区	367	7.85
泉 隆	東京都練馬区	230	4.92
杉田 敏	東京都豊島区	140	2.99
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	80	1.72
ラップジャパン従業員持株会	東京都港区赤坂1-12-32	64	1.38
小山 純子	東京都世田谷区	50	1.07
三菱UFJキャピタル株式会社	東京都中央区日本橋1-7-17	45	0.97
計		3,193	68.24

(注) 当社は、自己株式682,726株(14.59%)を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 682,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,995,700	39,957	
単元未満株式	普通株式 610		
発行済株式総数	4,679,010		
総株主の議決権		39,957	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式が26株含まれております。

【自己株式等】

平成26年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ラップジャパン	東京都港区赤坂1-12-32	682,700		682,700	14.59
計		682,700		682,700	14.59

(注) 上記の表は、完全議決権株式(自己株式等)の明細であります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年12月1日から平成26年2月28日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年9月1日から平成26年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,301	2,172
受取手形及び売掛金	894	674
有価証券	21	22
たな卸資産	1 126	1 168
繰延税金資産	78	78
その他	38	42
貸倒引当金	3	0
流動資産合計	3,458	3,159
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	81	75
その他(純額)	23	23
有形固定資産合計	105	99
無形固定資産		
借地権	0	0
ソフトウェア	10	9
のれん	30	22
無形固定資産合計	41	32
投資その他の資産		
投資有価証券	110	114
差入保証金	264	257
繰延税金資産	189	187
その他	24	43
投資その他の資産合計	589	603
固定資産合計	736	735
資産合計	4,194	3,894
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	475	377
未払法人税等	139	85
未成業務受入金	79	120
賞与引当金	63	51
その他	327	281
流動負債合計	1,085	917
固定負債		
退職給付引当金	138	137
役員退職慰労引当金	333	163
その他	0	0
固定負債合計	473	302
負債合計	1,558	1,220

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	470	470
資本剰余金	374	374
利益剰余金	2,148	2,127
自己株式	434	434
株主資本合計	2,559	2,538
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16	13
為替換算調整勘定	17	32
その他の包括利益累計額合計	0	18
少数株主持分	77	117
純資産合計	2,636	2,674
負債純資産合計	4,194	3,894

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
売上高	2,275	2,645
売上原価	1,640	1,972
売上総利益	634	672
販売費及び一般管理費	1 385	1 420
営業利益	249	252
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	-
為替差益	8	1
その他	1	0
営業外収益合計	11	2
営業外費用		
支払利息	0	-
出資金運用損	0	0
その他	-	0
営業外費用合計	1	0
経常利益	259	254
特別損失		
有形固定資産除却損	2 0	2 0
役員退職慰労金	-	35
訴訟関連損失	-	10
特別損失合計	0	45
税金等調整前四半期純利益	259	209
法人税、住民税及び事業税	95	85
法人税等合計	95	85
少数株主損益調整前四半期純利益	163	123
少数株主利益	18	36
四半期純利益	145	87

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	163	123
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32	3
為替換算調整勘定	14	25
その他の包括利益合計	46	29
四半期包括利益	209	152
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	185	105
少数株主に係る四半期包括利益	24	47

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	259	209
減価償却費	11	11
のれん償却額	6	7
退職給付引当金の増減額（　は減少）	0	0
役員退職慰労引当金の増減額（　は減少）	6	169
賞与引当金の増減額（　は減少）	24	11
貸倒引当金の増減額（　は減少）	0	2
受取利息及び受取配当金	1	0
支払利息	0	-
固定資産除却損	0	0
売上債権の増減額（　は増加）	37	220
たな卸資産の増減額（　は増加）	7	41
仕入債務の増減額（　は減少）	42	98
その他	19	45
小計	312	169
利息及び配当金の受取額	1	0
利息の支払額	0	-
法人税等の支払額	141	139
営業活動によるキャッシュ・フロー	172	31
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	8	7
有価証券の取得による支出	0	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	17	-
差入保証金の差入による支出	-	2
差入保証金の回収による収入	0	6
有形固定資産の取得による支出	2	18
無形固定資産の取得による支出	1	0
貸付金の回収による収入	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	7	22
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	11	-
自己株式の取得による支出	0	-
配当金の支払額	91	108
少数株主への配当金の支払額	31	34
財務活動によるキャッシュ・フロー	134	143
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	17
現金及び現金同等物の増減額（　は減少）	59	116
現金及び現金同等物の期首残高	1,667	1,986
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 1,727	¹ 1,870

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	該当事項はありません。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)	
(会計方針の変更)	該当事項はありません。
(会計上の見積りの変更)	該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)	
該当事項はありません。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年2月28日)
未成業務支出金	123百万円	164百万円
貯蔵品	3百万円	4百万円
計	126百万円	168百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
役員報酬	84百万円	80百万円
給料手当	99百万円	103百万円
賞与引当金繰入額	9百万円	11百万円
退職給付費用	2百万円	1百万円
役員退職慰労引当金繰入額	6百万円	5百万円
減価償却費	3百万円	3百万円

2 固定資産除却損の内訳は、次の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
その他(器具備品)	0百万円	0百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
現金及び預金	2,013百万円	2,172百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	286百万円	302百万円
現金及び現金同等物	1,727百万円	1,870百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月29日 定時株主総会	普通株式	99	25	平成24年8月31日	平成24年11月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月28日 定時株主総会	普通株式	107	27	平成25年8月31日	平成25年11月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)

当社グループは、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業のみの単一セグメントであるため記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)

当社グループは、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業のみの単一セグメントであるため記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年9月1日 至 平成26年2月28日)
1 株当たり四半期純利益金額	36円30銭	21円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	145	87
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	145	87
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,996	3,996

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年4月14日

株式会社プラップジャパン

取締役会 御中

有限責任 あづさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋 山 茂 盛

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加 藤 雅 之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社プラップジャパンの平成25年9月1日から平成26年8月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年12月1日から平成26年2月28日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年9月1日から平成26年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社プラップジャパン及び連結子会社の平成26年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかつた。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。